

# 滋賀県立大学 SDGs 重点取組計画

2023年3月

## 1. はじめに

2015年9月、国連において国際社会における2030年までの「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。SDGsは17の目標と169のターゲットからなる国際社会全体の共通目標であり、持続可能な暮らしにつながる叡智や実践を地域から学び探究する本学の基本的な考え方とも深い関わりがあるものです。

本学は2018年6月に「滋賀県立大学 SDGs 宣言」を行いました。これは本学の基本的な考え方と国際的な行動目標であるSDGsとを融合させることの宣言です。また、2019年には「滋賀県立大学 SDGs 取組方針」を策定し、教育、研究、地域貢献活動の各分野にわたる方針のもと、全学的な取組を行ってきました。

例えば、県内の大学生を対象にしたSDGs単位互換科目の提供、県内外の小中学校・高等学校や様々な団体が参加するキャンパスSDGsの開催、SDGsと研究活動との関連付け、事務局各課におけるSDGsの取組設定、フードロス削減アクション、連続講座や出前講座による地域の人材育成などに取り組んできました。

こうした取り組みの結果、学内の講義においてSDGsが取り上げられる機会が増加し、滋賀県立大学生活協同組合が令和2年に行った学生アンケートでは97.5%の学生がSDGsを知っている、または聞いたことがあると回答(全国平均87.2%)しており、本学学生のSDGs認知度は高くなっています。また、中学校や高等学校からSDGsの取組についての連携依頼や地域のSDGsの取組に関する相談や連携実績も増加しています。

学生活動においては、学生の地域活動「近江楽座」のすべての団体でSDGsを意識した活動をするなど、地域活動とSDGsとの関係が意識づいています。キャンパスSDGsの取組においては、学生実行委員が主体となって企画や運営を行っています。

一方で、SDGsの取組が学内の一部にとどまっており、SDGsが身近に感じられない、自分の日々の行動との関係が見えない、何から取り組んでいいのかわからないといった意見があります。SDGsは具体的な成果が見えにくいため、幅広く取り組むのではなく、重点的な取組を設定した方が学内外への意識づけができるのではないかという意見もあります。

さらに、2030年に向けて取組を進める中、新型コロナウイルス感染症の拡大は、世界中に甚大な影響を及ぼし、これまでの生活様式や経済活動が困難になるとともに、新しい時代の社会への変化を余儀なくされました。国連のSDGsに関する報告書では、コロナ禍で最も影響を受けたのは、最も脆弱な立場に置かれた人々と言われており、ウィズコロナ、アフターコロナ時代における誰一人取り残さない持続可能な社会づくりの重要性がますます高まっています。

これらのことを踏まえ、2030年のSDGsの達成に向けて、本学においてはこれまでの全方位的な取組を継続発展させるとともに、本学の知見や特徴を活かすことができる社会課題を重点的に取り組む項目（以下「重点項目」という。）として設定し、具体的に取り組むための「SDGs重点取組計画」を策定します。

「SDGs重点取組計画」は、「滋賀県立大学SDGs取組方針」に基づく全方位的な取組を継続発展させるとともに、社会や時代の変化に柔軟に対応しながら、SDGsの達成に貢献する滋賀県立大学らしい取組を「見える化」し、SDGsの達成に向けた地域の拠点として、本学がその役割を果たすことを目的とします。

## 2. 本学におけるSDGsの重点項目と取組の視点

「SDGs重点取組計画」の策定は「滋賀県立大学SDGs取組方針」に基づくこれまでの取組を継続しつつ、SDGsの達成に向けた重点項目を選定し、進めていくこととします。本学は「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」のモットーに示されるように、地域とともにその活動を高めあうことを大きな特徴としていることから、地域において本学の果たすべき役割を十分理解したうえで重点項目を設定する必要があります。

また、本学においては、建学の精神に基づき、本学の特徴を生かした研究の推進、高度化および活性化を図るため、戦略的な目標を定め、この目標を達成するため特定課題（「琵琶湖」、「健康増進」、「地域課題解決」）として研究等に取り組んでいます。この特定課題を踏まえつつ、新たな社会課題に対応することを考慮する必要があります。

特に、近年の地球温暖化と気候変動は、自然環境への影響だけでなく、農林水産業、海や陸の生態系への影響、自然災害の増加や人の健康にも影響があると言われています。本学が、将来の世代も安心して暮らせる持続可能な地域づくりや、環境問題に率先して取り組んできたあゆみを踏まえ、琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境を守り、豪雨災害等に強い持続可能な社会を次世代に引き継ぐことを目的に、地球温暖化、気候変動への対応を重点項目として設定することとし、本学の特定課題とあわせた「地球温暖化対応・CO<sub>2</sub>削減」、「琵琶湖」、「健康増進」、「地域課題解決」の4つをSDGs達成に向けた重点項目とします。

### 「SDGsの達成に貢献するための本学の重点項目」

- ① 地球温暖化対応・CO<sub>2</sub>削減
- ② 琵琶湖流域の保全再生
- ③ 健康増進
- ④ 地域課題解決

また、これらの重点項目については、本学のこれまでのSDGsの取組の視点を生かしつつ、さらに発展させるため「新しい技術・産業の創出」、「地域実践」、「地域・産学官連携」、「教育・人材育成」の4つの視点から全学的な取組を推進し、本学らしい研究、教育、実践でSDGsの達成に貢献することします。

### 「SDGsの達成に貢献するため全学的な取組を進める視点」

- ① 地域実践
- ② 新しい技術や産業の創出
- ③ 地域・産学官連携
- ④ 教育・人材育成

本学の重点項目とSDGsの達成に向けて全学で取り組む視点をまとめて図示すると以下の通りとなります。

# ～ SDGs の達成に向けた重点取組計画 ～

## <重点的に取り組む項目>

### 重点項目とSDGsの目標との関係

#### 地球温暖化対応・CO<sub>2</sub>削減

- ・学生や教職員はもとより、多様なステークホルダーとの連携で地球温暖化対応とCO<sub>2</sub>削減に貢献する。

目標6「安全な水とトイレを世界中に」

目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

目標12「つくる責任、つかう責任」

目標13「気候変動に具体的な対策を」

目標14「海のゆたかさを守ろう」

目標15「森の豊かさを守ろう」

#### 琵琶湖流域の保全再生

- ・琵琶湖の水質保全、生態系、集水域および周辺環境と暮らしなど総合的な観点から琵琶湖流域の保全再生に貢献する。

目標6「安全な水とトイレを世界中に」

目標13「気候変動に具体的な対策を」

目標14「海のゆたかさを守ろう」

目標15「森の豊かさを守ろう」

#### 健康増進

- ・健康寿命をキーワードに栄養、運動、看護および住環境など本学らしい様々な観点から健康づくりに貢献する。

目標1「貧困をなくそう」

目標2「飢餓をゼロに」

目標3「すべての人に健康と福祉を」

#### 地域課題解決

- ・地域と密接に連携して地域社会の課題の解決に取り組み、地域の豊かな暮らしと持続可能なまちづくりに貢献する。

目標4「質の高い教育をみんなに」

目標5「ジェンダー平等を実現しよう」

目標8「働きがいも、経済成長も」

目標11「住み続けられるまちづくりを」

目標16「平和と公正をすべての人々に」

目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」



## <重点項目の達成のための取組の視点>

#### 地域実践

フィールドワークや実習での学びや  
近江楽座で地域課題の解決に取り組む

#### 地域・産学官連携

SDGsの地域化拠点として、自治体、企業、関係団体等との連携で取り組む

#### 新技術・産業の創出

全学の研究を通じてイノベーション  
創出に取り組む

#### 教育・人材育成

専門的知識のみならず、地域で学び、  
国際的な視野も身につけた人材の育成  
に取り組む

### 3. SDGs の達成に寄与する重点項目の取組

重点項目で取り組む内容について以下のとおり、4つの重点項目ごとに4つの視点から例示します。

#### (1) 地球温暖化対応・CO<sub>2</sub>削減

##### ○地域実践

- ・本学のCO<sub>2</sub>削減の取組計画である「CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会に向けた滋賀県立大学の取組計画」を推進する。
- ・学内外のイベント等において、地球温暖化対応・CO<sub>2</sub>削減をテーマに取り上げ、地球温暖化対応やCO<sub>2</sub>削減行動の普及啓発を図る。
- ・近江楽座等の地域課題解決の活動において、CO<sub>2</sub>削減行動を実践し、持続可能な地域づくりに貢献する。
- ・滋賀県立大学ならではの研究、人材育成、学生活動でCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会・持続可能な地域づくりに貢献する。

##### ○新しい技術・産業の創出

- ・「CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会に向けた滋賀県立大学の取組計画」に基づき、クリーンエネルギー、持続可能な生産消費、生物多様性の維持、気候変動対策等に寄与する研究開発を推進し、社会実装を目指す。
- ・地球温暖化対応やCO<sub>2</sub>削減に関連する社会が求めるテーマについて研究を推進するとともにイノベーション創出に取り組む。

##### ○地域・産学官連携

- ・自治体や企業等の脱炭素社会の実現に向けた取組に本学の知的資源を活用して貢献する。
- ・産学連携センターにおいてCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会の実現に向けた新しい産業の創出や中小企業を中心とする地域産業の活性化を目的に産官学の連携コーディネートを実施する。
- ・脱炭素社会の実現に向けた大学間連携に取り組む「カーボン・ニュートラルに貢献する大学等コアリション」に参画し、大学の連携による社会課題の解決に貢献する。

##### ○教育・人材育成

- ・フィールドワークや実習等を通じて地球温暖化対応・CO<sub>2</sub>削減の研究を実践する人材を育成する。

- ・公開講座やシンポジウム等において、生涯学習として地球温暖化対応・CO<sub>2</sub>削減についての教育機会を提供する。

## (2) 琵琶湖流域の保全再生

### ○地域実践

- ・琵琶湖の生態系保全、内湖再生、里山再生、川辺林維持管理など琵琶湖流域をフィールドにした研究を通じて、琵琶湖流域の保全再生に貢献する。
- ・学生がフィールドワークや実習等を通じて琵琶湖流域の自然環境や文化生活について学び、琵琶湖流域の保全再生に向けた取組や研究を実施する。
- ・近江楽座等の地域課題解決の活動において、学生による琵琶湖をとりまく持続可能な地域づくりを実践する。
- ・滋賀県が推進する「マザーレークゴールズ (MLGs)」の達成に向けた取組に貢献する。

### ○新しい技術・産業の創出

- ・琵琶湖を取り巻く環境の保全再生に関する研究を推進し、水環境など新しい産業の創出やSDGsの達成に貢献するイノベーションの創出などに貢献する。
- ・琵琶湖流域の持続可能な社会を構築するために、琵琶湖の集水域や周辺環境と暮らしに関する研究を推進する。

### ○地域・産学官連携

- ・産学連携センターにおいて琵琶湖や水環境に関する新しい知見、技術を活用した産業の創出や中小企業を中心とする地域産業の活性化を目的に産官学の連携コーディネートを実施する。
- ・地域ひと・モノ・未来情報研究センターにおいて、スマート農業の研究を推進し、琵琶湖流域の農業の課題解決に取り組む。
- ・琵琶湖流域の自治体や地域と連携し、琵琶湖流域の保全再生に向けた地域の活動を支援する。

### ○教育・人材育成

- ・フィールドワークや実習等を通じて琵琶湖流域の課題解決の研究を実践する人材を育成する。

## (3) 健康増進

### ○地域実践

- ・近江楽座等による地域住民への健康生活支援活動を実施し、地域住民のQOL向上や健康づくりに貢献する。
- ・専門的人材を育成し、地域の医療保健福祉体制の構築に貢献する。
- ・滋賀の伝統野菜など地元食材の研究やメニュー考案を通じて食育の普及啓発を支援

する。

○新しい技術・産業の創出

- ・次世代ヘルスケア産業の創生に関する研究、健康寿命延伸を目指した健康づくりに関する研究を推進し、新しい技術の応用や健康産業の創出につなげる。
- ・食生活、生活習慣、栄養改善や食育に係る研究を推進し、その成果を社会に展開する。

○地域・産学官連携

- ・自治体や企業と連携し、健康寿命延伸を目指す健康づくりに関する取組や研究を実施する。
- ・産学連携センターにおいて健康に関する新しい産業の創出を目的に産官学の連携コーディネートを実施する。
- ・地域ひと・モノ・未来情報研究センターにおいて、スマート看護についての研究を推進し、滋賀の健康づくりや社会実装の研究に取り組む。

○教育・人材育成

- ・看護、生命科学と栄養学など健康医療福祉にかかる専門的人材を育成する。
- ・地域で活躍する健康医療福祉の人材のリスキリングなど社会人の人材育成を推進する。

#### (4) 地域課題解決

○地域実践

- ・地域課題を研究テーマとして分野横断的な研究を推進する。
- ・学生がフィールドワークや実習等を通じて地域の課題について学び、その課題解決に向けた取組や研究を実践する。
- ・地域と密接に連携した近江楽座の活動により地域課題の解決に取り組む。
- ・学内外のイベント等において、SDGs や持続可能な地域づくりをテーマに取り上げ SDGs の取組の普及啓発を図る。

○新しい技術・産業の創出

- ・社会人を対象としたリカレント教育プログラムを実施し、地域で新事業やイノベーションを創出する人材の育成に取り組む。
- ・学内の研究活動と SDGs との関連付けを行い、SDGs の視点で新たな技術や産業の創出に貢献する。

○地域・産学官連携

- ・公開講座やシンポジウム等において、生涯学習として SDGs の教育機会を提供する。
- ・県内外の行政機関、教育機関、企業等からの要請により教職員や学生を講師として派遣する。

- ・SDGsに関わる学生、企業、NPO、自治体、地域住民等の様々な関係者が交流し、連携する機会を創出する。
- ・SDGsに係る大学間の連携を強化し、SDGsを活用した豊かに働き生活できる地域づくりに取り組む。
- ・近江楽座等による小中学校・高等学校への出前講座により、地域課題解決の取組の普及啓発に取り組むとともに、小中学校・高等学校との連携関係を構築する。

#### ○教育・人材育成

- ・地域教育プログラム（近江楽士副専攻「ソーシャル・アントレプレナーコース」、  
「コミュニティ・ネットワークコース」）によりネットワーク力や起業力を身につけ、持続可能な地域づくりに取り組む人材を育成する。
- ・大学院副専攻「ICT実践学座“e-PICT”」や大学院副専攻「近江環人地域再生学座」において、地域社会で活躍する高度で専門的な人材を育成する。
- ・県内の学生がSDGsについて理解と関心を深め、具体的な行動を起こすきっかけを創出するため、SDGsにかかる単位互換科目を提供し、県内学生へのSDGsの理解促進を図る。
- ・地域課題解決に興味のある社会人等や企業、NPO、自治体、教育機関等を対象としたワークショップや講座等を実施し、SDGsに取り組む人材を養成する。
- ・FD/SD研修会等を通じて教職員のSDGsに係る理解を深める。

## 4. 重点取組計画の実施（教員、大学職員、学生）

この「SDGs重点取組計画」を具体的に取り組むために、教員、職員、学生がそれぞれの立場から、SDGsや持続可能な社会のあり方について、自らができることを考え続け行動する「SDGsの自分ごと化」が必要です。それぞれが連携し、学び合う機会を創出するとともに、関係するステークホルダーと連携し、効果的に取組を推進します。

### 1. 計画の推進体制

- (1) 「SDGs重点取組計画」は、教員、職員、学生の三者が相互に協力・連携し、その強みや知的資源を最大限に活かしていくことで、計画を効果的・効率的に推進します。
- (2) 「SDGs重点取組計画」の推進を共有するため、毎年度、計画の取組状況についてSDGs専門委員会において点検と評価を行います。それらを踏まえ、地域連携推進本部で取組の方向性について検討を行います。

### 2. 取組状況の情報発信

- (1) 「SDGs重点取組計画」を効果的・効率的に推進するためには、教員、大学職員、学生の理解と協力を得ることが重要であり、県大の教職員や学生が一人ひとりの課題と



して捉え、共感し、行動できるよう、取組状況を公表するとともに、成果、課題や対応等を効果的に伝達し、大学全体での気運の醸成を図ります。

- (2) 「SDGs 重点取組計画」の取組の進捗状況を、学外へも情報発信し、地域の SDGs の達成に向けた機運の醸成を図ります。

### **3. 関係機関等との連携**

- (1) 県、市町、地域、SDGs 関係団体との連携

県、市町、教育機関、地域、SDGs 関係団体等との連携のもと、計画を効果的・効率的に推進します。

- (2) 大学連携

SDGs の推進について、県内の大学との広域的に連携し、広域での SDGs の推進に取り組むことで計画の相乗効果を図ります。